

## 2018(H30)11.7 原家の五重塔とアミガサ事件記念碑と丸子界限の神社巡り (報告)

### 1. 概要 (アテンダー:大矢、山部、西山)

- \* 開催日: 2018 (H30)11.7(水) 13:30~17:00 晴れ
- \* 参加者: 15名: (一般6名、会員9名)
- \* 参加費:500円(保険料含む)

### 2. 主な行程

13:30 集合 JR 平間駅改札口→銚子塚 13:35 発→八幡神社/アミガサ事件百年の碑 13:50  
→平等山法田寺/秋元家の墓 14:00→旧玉川消防署(ぎょくせん…)→14:30 原家の五重塔  
14:40→中丸子神明大社 15:00→無量寺 15:10→有吉提記念碑 15:30→野口家の水車の跡  
→ガス橋 15:45 →15:50 ガス橋を渡り東京側に、多摩川堤防沿い→16:30 浅間神社着  
～浅間神社登り口で解散 16:50



写真1 原家の五重塔

### 3.トピックス

今日は原さん宅の五重塔をはじめ、旧御幸村を案内してもらいました。はじめに平間駅すぐ裏にある赤穂浪士に由来する「平間の銚子塚(省略)」からで、行程はほかに飛び入りもあって、たくさんの案内をしてもらいました。



写真2 ア赤穂浪士所以の調子塚

#### (1) アミガサ事件<sup>(1)</sup>と有吉提記念の碑

御幸村はアミガサ事件の地。1914年(大正3年)と百年前に、アミガサをかぶって、ここ八幡神社に集結したことから、「アミガサ事件百年の碑」があります。

指揮したのは秋元喜四郎、その秋元家の墓がすぐ近くの法田寺にあります。とくに庭と樹木が美しいお寺でした。そこに珍しい印度菩提樹<sup>(2)</sup>があるのを教えてもらいました、葉の先がうんとながいのが特徴だそうです。



写真3 アミガサ事件百年の碑

#### (2) 原さん家の五重塔

祖父の原宇之助様が代々の宮大工で、修行中にこの五重塔を創られたそうです。

これは日光東照宮の五重塔(重文・36M高)をモデルにしたという1/8の大きさだそうです。細部は見れば見るほどに精巧にできていて、その「匠」に驚きます。空襲も、神明大社とともに、このへんの一帯は免れました。無事に残ったこの五重塔は、貴重な川崎の文化財と思いました。いろんなところから譲ってほしい相談があったそうですが、移転にはたいそうな費用がかかるために断念されたそうです。



写真4 印度菩提樹 細く長い葉の先端が特徴です

つぎに、となりの神明大神と、その先の無量寺をひとつお案内してもらいました。神明大神の境内掲示には、羽黒権現の由緒がかいてありました。無量寺は七福神の寿老神のお寺でもあります。お正月に川崎七福神巡りで来た方もおられるでしょう。



写真5 有吉提百年の碑

お寺前の道路が当時の郡道です。これに沿って有吉提がつくられました。数メートルの段差で、その下の公園に「有吉提竣工百年之碑」ができました。



写真6 無量寺にて

ガス橋へ移動する途中に、ここに大きな水車のあった話を聞きました。二ヶ領用水の流れを利用した中丸子の野口家の水車は関東一の大きさと直径 5 間もあり、コメの臼では一度に 10 俵、どうじに麦臼も 5 俵をひき、昼も夜も精米と粉ひきで働いていたとあります。農が主体の、当時の産業のようすが想像できます。関東大震災で倒壊しました。



写真 7 ガス橋

### (3) 多摩川堤防と浅間神社

ガス橋を渡ると東京側です。ここからは 2.5KM の散歩コースです。住民の散歩姿はもちろんですが、途中で東京港高校もあってトレーニングに最適です。前からうしろからもグループが走ってきます。活気ある土手です。

達者な人たちは先に行ってしまいました。多摩川を挟んで、向こう岸はコスギ本のタワーマンションが群れています。ちょうど夕日が落ちていくので写真を撮りながら、遅れてしまいました。前後で 500M も離れています。

でも一本道なので大丈夫、自由行動のまま浅間神社に着きました。神社の舞台は多摩川と神奈川一帯を見渡せるビューポイントです。天気が良いと赤い夕陽を背に富士山がシルエットで浮かぶのですが、今日は曇っていて残念でした。

ここで解散しました。半数は多摩川駅から東横線で、また半数は夕暮れの丸子橋を歩きました。それで新丸子界限でお疲れ会にしました。



写真 8 多摩川の堤防を歩く  
遠くが丸子橋 2KM

### (注釈)

(1)アミガサ事件:大正 3 年(1914 年)、当時御幸村村会議員だった秋元喜四郎が、多摩川の水害に見舞われていた御幸村の農民を救うため、自らリーダーになって近隣農民 500 人とともに揃いの編み笠を被り、神奈川県庁におしかけました。これが「アミガサ事件」で、この事件を契機に有吉忠一神奈川県知事は、沿道をかさ上げして多摩川に堤防を築きました。



写真 9 タワーに夕日が

(2)印度菩提樹 をネットで調べていたら下記のような説明がありました。

お釈迦さまに縁のある三つの木は「三聖木」と呼ばれています。 生まれた所にあった木・・・無憂樹(むゆうじゅ) 悟りを開いた所にあった木・・・印度菩提樹 (いんどぼだいじゅ) 亡くなった所にあった木・・・沙羅双樹(さらそうじゅ)

### (あとがき)

「木に学べ」という西岡常一さんの本を読んだことがありました。著者の実家は法隆寺の隣で代々の宮大工です。ご存知の方もおられると思います。この本に薬師寺の五重の塔、西塔の再建の話がありました。1000 年以上も前の飛鳥時代建築物を解体しながら、多くの学ぶことがあったそうです。「心柱」となるヒノキを探すことから、据え付けるにも年輪の方向の話や、地震や台風に耐えるために屋根の瓦の重みが「心柱」に向かうように高層構造を支えていることが書かれていました。また出来あがったときには東塔よりも少し高かったのも、そのことを聞かれたときに、「1000 年後には同じになります」と答えた話は有名です。1000 年後は屋根の梁の反りも変わるのだそうです。

材料は引張方向に比べて圧縮方向にはうんと強いので、古人はそれらのことごとを“美事！”に応用していることに感動しました。そのような書物からの思い出もあって、このたびの原さん宅の五重塔を見せていただきましたが、そこには外観の各部位の精確さはもとより、五重の屋根のそれぞれにもいろんな計算があつて作られたのではないかと、そんな試作モデルだったので、と思いました。

(西山記)